



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0082 東京都大田区池上 1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
https://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2022年9月号)

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



次から次に台風が発生し、全国で災害が発生しています。

被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

気候変動によると思われる災害が毎年発生し、被害も大きくなる傾向です。

子どもたちに、そんな荒ぶれた時代を粘り強く生き抜く力を育む自然体験と環境学習が求められています。

今月では、そんな取り組みの一つとして、「どんぐりSDGs劇団」全国キャラバンをご案内しました。

(写真は、北海道教育大学の能條先生からご提供いただいた、北海道のどんぐりの写真です。)

(目次)

1. ご案内：「どんぐりSDGs劇団」全国キャラバン参加園募集
2. 活動レポート：「東北復興グリーンウェイブ2022」東北の苗木を見送る活動レポート
3. J P子どもの森づくり運動「園庭緑化運動」2022年度オンライン講座のご案内
4. リレーエッセイ (2022年9月号)
5. お知らせ：「子森チャンネル」サブチャンネルのご案内

■「J P子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
- ・特別協賛：日本郵政グループ
- ・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育連盟

NPO法人 富良野自然塾

(公社)大谷保育協会

(公社)こども環境学会

保育環境研究所ギビングツリー

国際校庭園庭連合日本支部

(公社)国土緑化推進機構

(一社)日本森林インストラクター協会

郵便局の魅力を発信するメディア「JP CAST」は
下記QRコードからご覧いただけます。

郵便局の魅力を発信するメディア

JP cast



1. ご案内：「どんぐりSDGs劇団」全国キャラバン参加園募集

ＪＰ子どもの森づくり運動では、幼児(少)期の子どもたちに、SDGsの大切なことを分かりやすく伝えるための試みとして、「**どんぐりSDGs劇団**」を結成しました。保育園・幼稚園・こども園の子どもたちに自然と環境体験活動を提供する活動とともにお芝居の力によって、森の楽しさや森の生態系の大切さを体感的に伝えていこうという挑戦的な取り組みです。演じるのは「♪どんぐりえがお」でおなじみの「どんぐり〜ず」の皆さん。演題は『**どんぐりの森のドンちゃんとグリちゃん**』です。どんぐりの森に住む「どんぐり〜ず」が、いろいろな動物たちとの出会い、様々な体験の中で、森の大切さ、森に住むものはみんな仲間、互いに分かち合う心が大切なことに気づいていくお話です。お芝居の内容を、「子森チャンネル」にアップしましたのでご覧下さい。（QRコードからご覧いただけます。）新型コロナ感染症が治まりつつある状況を踏まえて、「どんぐり〜ず」が皆さんの園に出かけて行く「全国キャラバン」を少しずつ開始したいと思います。参加ご希望の方は、同封の「申し込み用紙」でお申込み下さい。

1) 運営概要（敬称略）

- 企画制作：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
劇団スーパー・エキセントリック・シアター
- 脚本：小暮邦明・演出：山崎大輔
- 音楽：大崎聖二 佐久間順平（「♪どんぐりえがお」）
- 衣裳：水野佳子・小道具：どんぐりSDGs劇団
- *特別協賛：日本郵政グループ



どんぐり〜ず



どんぐりSDGs劇団

2) 活動趣旨・目的〜今、なぜ「どんぐりSDGs劇団」なのか〜

ＪＰ子どもの森づくり運動では、これまで「東北復興グリーンウェイブ」の活動の一環として、「♪どんぐりえがお」の歌とダンスによって“どんぐりの絆”と“共生の心”を全国の子どもたちに語り継ぐ活動を継続しています。『**あの子のところへ君のえがお この子のところへきみのえがお 緑の心がみんなに届く 緑の絆が力になる**』「♪どんぐりえがお」が伝えることは、これからSDGsの時代を生きていかなければならない子どもたちに、今、もっとも伝えなければならない大切な心です。新型コロナ感染症の状況がなかなか改善されず、野外活動や自然・環境体験活動が自粛されがちな今こそ、歌、ダンス、さらにそれらを統合した総合エンターテインメントとしてのお芝居の力によって、大切な心を子どもたちに伝える活動に取り組みたいと思います。

3) 出演者、及び演出者紹介

今後の全国キャラバンへの展開を想定して、現在、「どんぐり〜ず」は、SD組とGs組の2組のメンバーで編成されています。

演出の山崎さんを含めて、皆さんキャリアのある優れたエンタテイナーであると共にコミュニケーションのプロです。子どもたちに、より良き未来を願う保育者が伝えたい大切なことを分かりやすく伝えてくれるでしょう。



★どんぐり〜ず「SD組」

- ・安田 裕さん
- ・鎌田麻里名さん

「どんぐり〜ず」さんからのメッセージ

「新型コロナの感染症状況が改善されて、早くちびっこたちの前で
お芝居をやりたいです。待っててねー！」



★どんぐり〜ず「Gs組」

- ・嶋田 真さん
- ・山下香織さん



★演出：山崎大輔さん（SET劇団）

山崎さんからのメッセージ

『子どもはみんなどんぐりが大好き。どんぐりも、森を元気に走り回る子どもたちが大好き。そんなどんぐりの気持ちを伝えたくて、歌とダンスが入った楽しいお芝居を作りました。たくさんの子どもたちに届きますように！』

2. 活動レポート：「東北復興グリーンウェイブ2022」東北の苗木を見送る活動レポート

千葉県「今井保育園」さんでの東北の苗木を見送る活動です。千葉中央郵便局の局長さんと職員さんが苗木を受け取りに来てくれましたが、新型コロナウイルス感染症対応のため園児との接触は避け、先生たちがどんぐりの苗木を手渡しました。以下、園の活動レポートです。

*日 時：2022年5月17日(火) *会場：自園 *日本郵政グループ参加者：千葉中央郵便局 局長さん・職員さん



3. J P子どもの森づくり運動「園庭緑化運動」2022年度オンライン講座のご案内

J P子どもの森づくり運動では、「国際校庭園庭連合日本支部」との共催で、多様な園庭緑化・自然化、さらに地域資源の活用等を学ぶオンライン講座を年4回開催中です。園庭をテーマにすぐれた研究や活動を実践されておられる素晴らしい講師の方々にご出講いただいております。6月講座、8月講座は終了し、残り10月講座と12月講座の2講座です。全講座、受講費は無料ですが受講者数が限られております。(先着30名)各講座、定員間近となっておりますので、ご希望の方は、急ぎお申し込み下さい。

受講申し込みは、ホームページからお申込みいただけます。

【10月講座】まちを愛でてまちを楽しむ～まち保育のススメ～

*日 時：2022年10月25日(火)14:00～15:30

*講 師：横浜市立大学大学院 都市社会文化研究科

都市社会文化専攻 教授 三輪 律江(みわ のりえ) 先生



【12月講座】園児と自然の生きものが出会う空間の作り方・使い方

*日 時：2022年12月20日(火)14:00～15:30

*講 師：(公財)日本生態系協会 教育研究センター センター長 田邊 龍太(たなべ りょうた) 氏



4. リレーエッセイ (2022年9月号)

幼児(少)期の環境教育をテーマに、北海道教育大学 教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩 (あゆむ) 先生によるリレーエッセイ6回目の連載です。今月号は、「自然の中にあるつながり」「自然と自分とのつながり」についてです。

自然体験への期待～つながりの実感～

北海道教育大学 教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩



自然について学ぶための自然体験は、自然物を室内に持ち込んでも実施できます。例えば、タンポポを持ってきてじっくり観察したり育てたりしながら、花のつくりや咲き方を学ぶことは室内でも可能でしょう。しかし、タンポポはどんな所に咲くのか、単体で咲くか群生するか、どんな生き物が周囲にあるか、といった「他の自然物との関係性（つながり）」は、室内に持ち込んで行う活動ではわかりません。また、自分がそれを見てどう思うかといった「自分との関係性」も、自然の中での“生き様”を見なければ表面的なものしかわからないでしょう。

室内での自然体験は、切り取ってきた自然の“部分”についての学びです。したがって、その“部分”が実際の自然のどの“部分”なのかがわからないままでは、“部分”への理解は深まったとしてもそもそも得たかった自然への理解は深まりませんし、自分と自然のつながりの理解もその“部分”に関するものにとどまってしまう。自分とのつながりを感じられないと親近感も感じづらいので、愛情や守ろうという意識を持って自然のために行動するということにもつながらないでしょう。逆にとりたててプログラムがないものであっても、キャンプのような自然に包まれた中で行う体験活動にそれなりの効果が報告されているのは、自然とのつながりを感じることができる場面が多いためだからと思われます。



日本野鳥の会の創設者の中西悟堂は、籠の中の鳥を鑑賞するのではなく、「野の鳥は野に」という愛護と保護の精神を含んだ野鳥観察を提唱しました。そこには、自然という大きな世界の中であってこそその鳥であることや、鳥を含めたさまざまなモノが関係性を持って存在してこそその自然であるということ、などを感じるべきだという思想を感じます。このように、「自然の中にあるさまざまなつながり」や「自然と自分（ヒト）とのつながり」などを実感する学習の場としても、自然体験には大きな期待が寄せられているのです。

【筆者近況】

台風シーズンたけなわですが、北海道ではすでにセミの声も聞けなくなり、赤とんぼが見られるようになりました。日中は25℃を超える日も朝晩は10℃代の気温です。日によっては海水温の方が気温より高い時間帯がありそうです。樹木の葉も少しずつ紅葉が始まって、秋の気配が近づいてきています。



5. お知らせ：「子森チャンネル」サブチャンネルのご案内

現役の保育者世代との交流を深めることを目的に、保育園・幼稚園・こども園の職員さんたちに楽しんでいただけるような動画をYouTubeで発信しています。動画の内容は“やってみよ”的な実験動画などが多いです。ちなみに、実験動画などとは別に、年間企画として「イチ蕎麦」企画も配信中です。1年間かけて、「一杯のかけそば」を手づくりし、その工程にある様々なリアルな体験もお届けしています。皆さんと一緒に、どうなるんだろう？ 本当にできるのかな？ のワクワクを共有したいと思っています。そして、今後の企画については、先生方から、リクエストをいただくと嬉しいです。動画は、右のQRコードからご覧いただけます。ぜひ、チャンネル登録・高評価・コメントをよろしくお願い申し上げます。

(子森サブチャンネル企画・編集・撮影担当：勝目とも子)

